

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175800259		
法人名	株式会社 クオス		
事業所名	グループホーム ほのかの里 桜丘		
所在地	夕張郡栗山町桜丘1丁目80-74		
自己評価作成日	平成24年3月1日	評価結果市町村受理日	平成24年4月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0175800259&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成24年3月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

原則や決まり事をみだりに作るのではなくお一人おひとりが、自由でありのままにお過ごしいただけることを心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム ほのかの里 桜丘」は、近くに公園や大型店舗があり、生活に便利な環境に立地している。平成13年に開設し、11年目を迎えた当ホームでは利用者の重度化に伴い生活スタイルも徐々に変化し、ケアを中心とした利用者のニーズに沿って対応している。昨年は医療連携の体制を作り、訪問診療も実施している。防災対策を積極的に進めており、今後は運営推進会議の開催数を増やす中で、災害時の町内会や近隣との協力体制に向けて、より堅固な関係作りを目指している。利用者の重度化に伴い、遠出の外出行事も困難な状況であるが、法人で運営している隣接のデイサービスや近隣のグループホームの立地条件を活かし、行事や普段の利用者同士の身近な交流を、さらに増やしたいとしている。法人の夏まつりには、近所の人が出店で参加し、各法人事業所の利用者・家族や地域住民と交流を楽しむ機会になっている。運営者・管理者・ケアマネージャー・職員は来訪される家族とのコミュニケーションを大切に、一体となって利用者が安心できる環境づくりに努め、おだやかに、ありのままに過ごせる日々を念頭に、職員は常にケアについて話し合いながら暮らしを支えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	○	↓該当するものに○印		○	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる(参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている(参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある(参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている(参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている(参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている(参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている(参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている(参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている(参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている(参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている(参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当ホームの運営理念は「ゆったりと楽しく」「自由にありのままに」「暮らしの喜びと地震を」「いつも笑顔で」「地域とともに」を掲げております。	開設時に作成している運営理念に、「地域とともに」の文言を加え、住民との関わりを意識している。今後はミーティングの回数を増やし、理念について話し合う場を設けたいと考えている。職員は申し送り時やケアの中で理念を意識している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の挨拶や夏祭り、栗山神宮際の御神輿などを通じて交流しています。	地域の秋祭りでは、事業所の広場にお神輿を迎えて近隣の人と一緒に楽しんでいる。法人夏祭りには食べ物の出店などで住民の協力がある。当日は法人各事業所の利用者の参加もあり、交流の場になっている。散歩や外気浴の機会に住民と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	火災訓練や夏祭りなどの機会をとおして地域の人たちに必要な情報を伝えて行きたいと思っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は毎年開催していますが、開催回数が少ないので増やせる様努めております。	運営推進会議の開催増を検討していたが、事業所の諸事情が重なり、昨年は1回の開催となっており、今後も課題としている。消防署職員の参加を得て、火災や地震の対策について討議している。会議で外部評価の結果も報告している。	定期的な開催に向けて、少なくとも年に4回は運営推進会議の実施に期待したい。また、事前に会議のテーマを決め、家族の意見も得られるなど、会議内容の充実に期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂くほか情報開示の際はご指導いただきました。	町の担当者は運営推進会議のメンバーになっており、いつでも相談できる。管理者は毎月の管理者会議に参加し、事例などのアドバイスをいただいている。町運営の栗山日赤病院の実習生を受け入れて協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除宣言を掲げると共に講習会などにも参加し、職員全員で取り組んでいます。	身体拘束排除マニュアルがあり、禁止の具体的な行為を把握している。町の研修会に参加し、身体拘束の研修内容を基に話し合い、抑制に繋がる言葉や不適切なケアについても確認している。今後、ミーティングの中でさらに学べる機会を検討している。玄関は鍵を掛けず、帰宅願望がある時は話題を変えて安全に見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、日常での小さな出来事などの確認をとり異常が見られた場合は報告しています。		

ほのかの里 桜丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行なっていません。学習会の検討をしております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明し納得を図っています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム管理者、総合施設長がいつでも対応しており、それらを運営に反映させております。	家族の来訪時には、ケアの方向性や健康について話し合い、常に家族とコミュニケーションをとっている。介護計画の見直し時にも家族の意向を聞いている。要望書を用意しているが、家族からは相談の意見が多く、特に苦情などはない。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期ではないが管理者が話を聞き、必要に応じて全体会議を行なっています。今年からは職員にも資料を配布し自己評価していただいています。	管理者・ケアマネジャーもケアに従事しているので、申し送り時や業務の中で、常に話し合っている。また職員の提案は、連絡ノートに記載し全職員が確認後、管理者が中心になって方向を決めている。運営者が職員の希望を基に勤務表を作成し、管理者は働きやすいように希望の調整をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	整備されていると思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会がその都度与えられ職場に活かしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修の際などに交流の機会があった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて調整をしております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築いております。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	築いております。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方、御家族が訪れております。	家族の同行で、馴染みの床屋やお墓参りに出掛け、法人内の別グループホームで生活する家族に会いに行っている。近所の人や友人の来訪時には、ゆっくり会話を楽しめるように居室や居間などの場所に配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り努めております。	利用開始時に生活歴や趣味なども基本情報に収集し、状態が変わった時は情報を追加している。会話や表情で利用者の思いを汲みとり、職員間で確認して意向を探っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めております。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成しております。	新規計画は1~2か月後に見直し、その後変化が無ければ基本的には3か月ごとの見直しとしている。事前に家族の意向を聴き、ケアマネージャーは職員からの情報や介護記録を参考にしてモニタリングを実施する。その内容をケース担当者会議で確認し更新計画を作成しているが、さらに利用者視点での計画を検討している。	モニタリングに全職員が記録などを通して参加し、利用者の思いが介護計画に反映できるような取り組みの検討に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日記録し、情報の共有をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援しております。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望の病院を受診しています。家族より納得が得られた場合は訪問診療サービスを受けています。	医療連携体制加算の際に、訪問の可能なクリニックと協力体制を作り、2週に1回の往診を実施している。家族が同行して遠方の病院を受診する時は口頭で医療情報を交換している。他の医療機関の受診時には職員が同行するなど、利用者・家族が希望する病院への受診を支援している。	

ほのかの里 桜丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護に報告し、相談しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	努めております。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応終末期の指針を作成して説明し、同意を頂いています。	医療連携体制に基づき、「重度化対応・終末ケア対応指針」を作成し、家族に説明後、同意を得ているところである。現在の段階で看取りケアの実例はないが、家族の希望に沿い、看取りを実施していく方針である。医療連携の中で必要な医療を提供し、継続的な管理が必要な場合は入院方向としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修に参加し、訓練を行なっています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の非難訓練を通して地域の方にも協力して頂いています。	昨年は消防署指導の下に、法人デイスサービスと合同で、日中・夜間を想定した避難訓練を実施しているが、住民の参加は得られていない。スプリンクラー設置、緊急時の近隣への連絡方法、地震に備えての話し合い、災害時の備蓄品類の管理など、災害時に備えている。	次回の避難訓練の際には、住民との協力で行われることを期待したい。また、法人間での緊急時連絡の取り決めを検討されているので、それに期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々注意し、心がけています。	「さん」づけを基本に、本人がわかり易いような呼び掛けにしているが、「ちゃん」づけが一般化しないように注意している。精神面を傷つける言葉を使用したり、排泄に関する言葉掛けも大きな声にならないように配慮している。個人記録は、事務所的に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	重度化が進んでおりますが、思いを汲み取るよう努めております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や利用者の気分に合わせて対応しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	努めております。		

ほのかの里 桜丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な調理の準備は参加しています。	献立は法人で作成しているが、利用者の状態に応じて献立を変更したり、調理方法を工夫している。誕生日に赤飯やちらし寿司を作ったり、出前の握り寿司などを楽しむ事もある。現在は食事介助が多くなり、職員と一緒に食事をする機会が少なくなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の内容を工夫したり、水分量をチェックし確保できる様努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後チェックを行っております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを記録し、随時トイレへ誘導しています。	自分から排泄を訴える利用者は少なくなっているが、排泄間隔を把握してトイレでの排泄を支援し、可能な限りパットやおむつの使用が抑えられるように配慮している。医師と相談して薬を減らす事で、排泄面が改善した事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでいます。下剤の調整など。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	原則は曜日によって入浴していますが通院や体調、本人の意向で調整しております。	日曜日以外の午後を入浴日として、各利用者の体調や意向を尊重しながら週2回入浴できるように支援している。入浴を拒否する場合は、時間や曜日を変えたり、職員が交代して声掛けをして入浴が楽しめるように工夫している。利用者の身体状況に応じて、二人介助で入浴を行う場合もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援しております。		

ほのかの里 桜丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	支援しております。	冬季以外の天気の良い日は、庭に出て外気浴をしたり、近隣の散歩を車椅子利用者も一緒に楽しんでいる。近くの栗山公園に藤の花を見に出掛けたり、天候に応じて散歩に出掛ける事もある。冬季は、通院が外出の機会になっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御自分でお金を持つてはおりませんが対象の方が入居されたならば支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援しております。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	塗り絵で季節の物、その季節に合った折り紙の作品を貼ったりと、利用者が楽しめる工夫をしている。	居間と食堂のスペースが別々になっており、食事を終えた利用者が、ソファでゆっくりくつろぐ事ができるような広々とした造りになっている。廊下や浴室、トイレなど、利用者が使いやすいように手すりなども備え付けられている。温湿度計を数か所に設置して加湿に配慮したり、風邪などに対するウイルス対策を行ない、健康に過ごせるように環境を整備している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫しています。	各居室にクローゼットが造りつけられており、希望により、事業所のベッドも使用できるように準備されている。身体状況に応じてベッドに手すりを配置したり、冬季は濡れタオルなどで湿度調節を行うなど、各利用者が居心地良く過ごせるように配慮している。ぬいぐるみや馴染みの服などを持ち込み、綺麗に整理された居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり当を使用して工夫しています。		

目標達成計画

事業所名 ほのかの里 桜丘

作成日：平成 24年 3月 29日

市町村受理日：平成 24年 4月 4日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の開催数が少ない。	定期的な開催に向け、年に4回は行ないたい。	ほのかの里、ほのかの里桜丘の管理者がそれぞれ1回を担当し、テーマを決め、行なっていきたい。	1年
2	26	ケアプランの中で、モニタリングに介護スタッフの考えが反映されていない。又、記録にも残っていない。	介護スタッフのモニタリングへの参加。	モニタリングのチェックシートの作成(センター方式等)をし、介護スタッフに配布。情報を反映させる。	6ヶ月
3	35	昨年の避難訓練の際、近隣の住民が参加していない。	避難訓練の際、住民の協力を得る。	避難訓練の際、住民への参加の呼びかけを行なう。	6ヶ月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。